北海道清里高等学校

校長　清　水　公　久

生徒数　１０９名

学級数　　３学級

職員数　　１６名

―　地域と連携し社会に開かれた教育課程による郷土愛と国際性を育む学校経営　―

清里町の基本目標「ふるさと（郷土）に誇りを持ち、未来に向かって人と文化を育む教育のまち」を踏まえ、町の特色を最大限に生かすカリキュラムを編成し、町と連携し、地域と一体となった教育活動を推進している。

地域の人的・物的教育資源を有効に活用した授業及び学校行事を実施するとともに、町からの支援を積極的に活用することにより、ニュージーランドの姉妹都市との交流を軸とした国際理解教育を推進し、生徒の郷土愛と国際性を育成している。

―　充実した「国際理解教育」の提供によるグローバル人材の育成　―

町の支援を生かし、英語教育の環境を充実させている。特に、１学年のニュージーランド研修に向けてＡＬＴを活用し、日本の文化紹介の準備を進め、研修時には、姉妹校であるモトエカ高校での「文化発表」において、成果の発表と取組の振り返りを行うなど、生徒のコミュニケーション能力を育んでいる。

また、研修後において、英語検定の上位級の取得を目指し、講習等を通じて生徒の英語のスキルを磨くとともに、希望者の中から選抜された生徒をモトエカ高校との交換留学に参加させるなど、積極的なグローバル人材の育成を図っている。

―　「地域連携」を柱にした地域への誇りを持った生徒の育成　―

清里町役場、ＪＡ、商工会、町教育委員会、観光協会、老人介護施設、社会福祉協議会、東京農大等の多数の関係機関の協力を得て、多様な地域の人的・物的教育資源を活用した出張授業、講話等を実施している。

また、地域の祭典等において、理科と家庭科で共同開発したレシピに基づいた商品を販売したり、神輿やパレードへ参加したりするなど、地域の特色ある行事への参加を通じて、生徒が地域への理解を深めるとともに、地域に誇りを持ち、郷土愛を育んでいる。

―　生徒が主体的に協働して学ぶ授業の展開　―

生徒の多様なニーズに応えるため、選択授業において、生徒一人一人の進路希望に応じた科目を設定している。

例えば、「フードデザイン」における地域の特産品を使ったレシピの開発・販売、「音楽Ⅲ」や「生涯スポーツ」における幼稚園訪問、音楽発表会、地域のスポーツ大会の企画・運営、「環境科学」における地域の専門家から指導を受けながら実施するじゃがいも栽培、濤沸湖の生物を観察する地域巡検など、地域に根ざした多彩な学習活動により、生徒の学ぶ意欲を高めるとともに、主体性や協働性を育んでいる。